

掲載論文の紹介

秋田県立大学ウェブジャーナル編集委員会

【地域と連携したものづくり（技術開発や提言）】

■秋田スギの木杭による水路護岸基礎工および地盤補強工法の開発（佐々木貴信ほか）

本論文では秋田スギと男鹿石の新たな用途開発を目的に、秋田大学及び県内企業と共同で木杭基礎と石積みによる多自然型護岸工法を開発し、大潟村での試験施工により、その効果を検証している。また、超軟弱地盤の補強対策として木杭打設による工事用道路地盤の改良工法の検証も行っており、今後、老朽化した大潟村の用水路改修工事における農業土木技術としての採用が期待される。

■花きにおける新品目の普及、新作型の導入および農福連携の可能性の模索（神田啓臣ほか）

著者がFCと連携して取り組んでいる3つの事例を紹介している。第一に花きの新品目であるダビウムの普及のための取り組み、第二に球根ベゴニアの秋出荷作型への試験的な挑戦、第三に農業と福祉の連携による自立・就労支援策として障がい者の試行的な実習の受け入れである。

■秋田県における植物工場（スマートアグリ）の採算性と導入条件（酒井徹ほか）

現在注目されている「植物工場」について、先進事例分析をもとに、秋田県における3つのモデルを提示し、それぞれの粗収益、雇用人数、農業との関係を示した。植物工場導入を検討している農業関係者には参考になるだろう。

【地域と連携したひとづくり（教育）】

■高大連携授業とその効果（廣田千明ほか）

学部の授業である「プログラミング演習」を高校生向けに提供した事例が紹介されている。高校生科目等履修生制度を創設したことなどから、受講者の21%を入学者として獲得している。県内高校生の取り込みを課題とする本学にとって、高大連携授業における工夫は全学的に検討されるべきであろう。

■高校生を対象とした人工知能に関する授業の実践（間所洋和ほか）

人工知能に関する座学と、レゴのロボットを教材とした実践を高大連携授業として実施した事例が紹介されている。今後の教材として活用できるようにAIの概論が述べられている。また、授業の所感として高大連携授業を実施する上での具体的な問題が指摘されている。

【地域と連携したまち・むらづくり（地域づくり）】

■秋田県藤里町における社会的包摂型生活困難者支援の展開（小松田儀貞）

藤里町社会福祉協議会が行っている「ひきこもり支援事業」は、支援を必要とする住民1人1人のニーズに合わせて、社会的参加の機会をきめ細かく提供する事業として全国から注目されている。本論文はそれを「社会的包摂型支援」と呼んで、その独自性を明らかにしている。

■高齢者における詐欺犯罪に対する脆弱性（渡部論ほか）

近年我が国の高齢化率は著しく上昇し、それに伴い詐欺犯罪（オレオレ詐欺等）にあう高齢の被害者が増えており、本県在住の高齢者もその例外ではない。このような背景を受け、本論文は詐欺被害に遭いやすい高齢者の認知的な特徴を分析することで、本県の詐欺被害防止に有用な知見を導き出した。

■地域貢献事業から米の産地マーケティング研究への接続（中村勝則）

米価大幅下落が問題になっている中、JA秋田おばこ花火米研究会は価格や食味などの点で大きな成果を挙げている。農業経済学を専門とする著者はアドバイザー、調査研究や学生派遣などの形でこの研究会を3年間に渡って支援してきた。地域貢献が研究や教育へと発展する事例報告として興味深い。